

定期作況報告

平成30年11月
(11月20日現在)



北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：平均気温は上旬が平年並で、中旬・下旬はともに高かった。月平均気温は5.9℃で平年よりやや高かった(+1.3℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬は多く、下旬は少なく、月合計は21.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬はやや多く、下旬は多く、月合計は210.8時間で平年並であった。

5月：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬・下旬はともに高かった。月平均気温は10.8℃で平年並であった(+0.2℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は少なく、下旬はやや少なく、月合計は71.5mmで平年よりやや多かった。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬は平年並で、下旬はやや多く、月合計は153.3時間で平年並であった。

6月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬は極めて低く、下旬は平年並であった。月平均気温は14.2℃で平年よりやや低かった(-0.8℃)。降水量は上旬が平年並で、中旬・下旬はともに平年より多く、月合計は110.0mmで平年よりやや多かった。日照時間は上旬・中旬がともに平年並で、下旬はやや少なく、月合計は151.8時間で平年並であった。

7月：平均気温は上旬が平年より極めて低く、中旬が平年並で、下旬は高かった。月平均気温は18.8℃で平年並であった(-0.5℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬は平年並で、下旬は少なく、月合計は185.5mmで平年より多かった。日照時間は上旬が平年より少なく、中旬は平年並で、下旬は多く、月合計は149.5時間で平年並であった。

8月：平均気温は上旬が平年よりやや低く、中旬は極めて低く、下旬はやや低かった。月平均気温は18.1℃で平年より低かった(-1.7℃)。降水量は上旬が平年並で、中旬・下旬はともに多く、月合計は236.0mmで平年より多かった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は115.8時間で平年並であった。

9月：平均気温は上旬が平年並で、中旬はやや低く、下旬はやや高かった。月平均気温は15.8℃で平年並であった(±0.0℃)。降水量は上旬が平年より少なく、中旬はゼロで、下旬は少なく、月合計は28.0mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年並で、中旬は多く、下旬はやや少なく、月合計は171.7時間で平年並であった。

10月：平均気温は上旬が平年よりやや高く、中旬は平年並で、下旬は高かった。月平均気温は9.4℃で平年よりやや高かった(+1.1℃)。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬はやや少なく、下旬は極めて多く、月合計は133.3mmで平年より多かった。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬・下旬はともに平年並で、月合計は151.9時間で平年並であった。

11月：平均気温は上旬が平年より極めて高く、中旬はやや高く、中旬までの平均気温は4.7℃で平年より高かった(+1.9℃)。降水量は上旬・中旬がともに平年より少なく、中旬までの合計は10.5mmで平年より少なかった。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬はやや少なく、中旬までの合計は82.7時間で平年並であった。

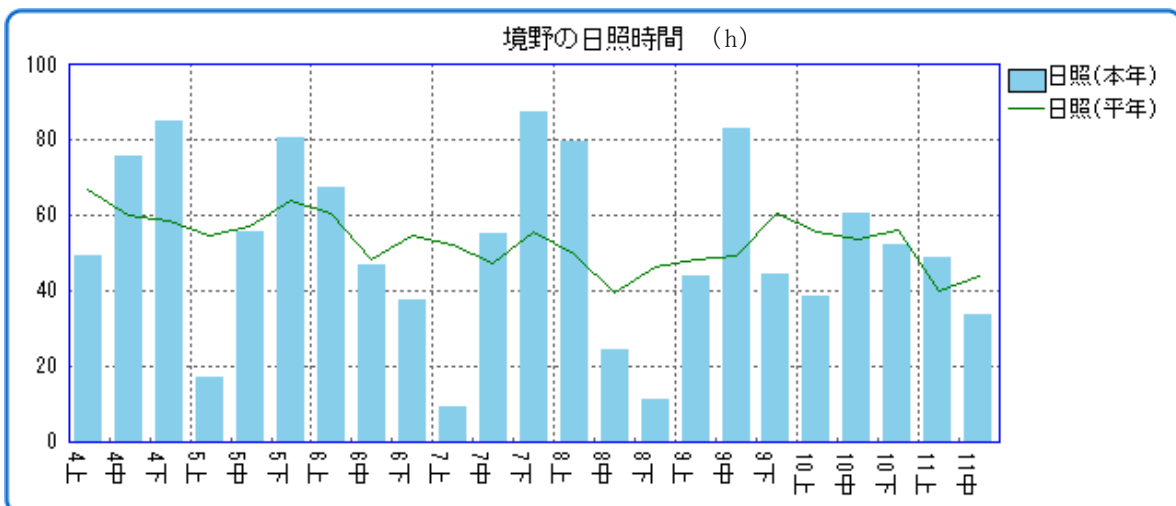
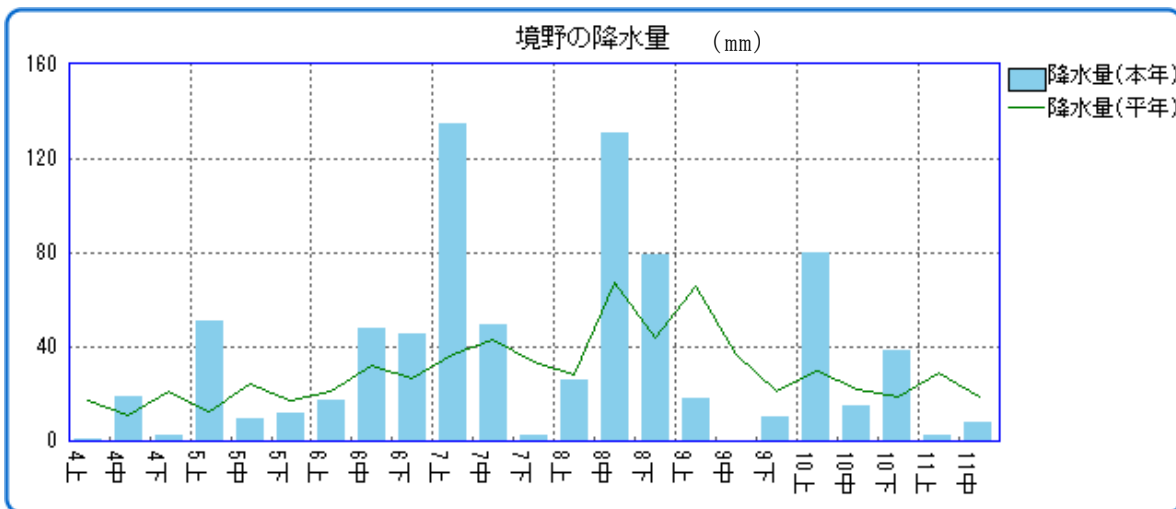
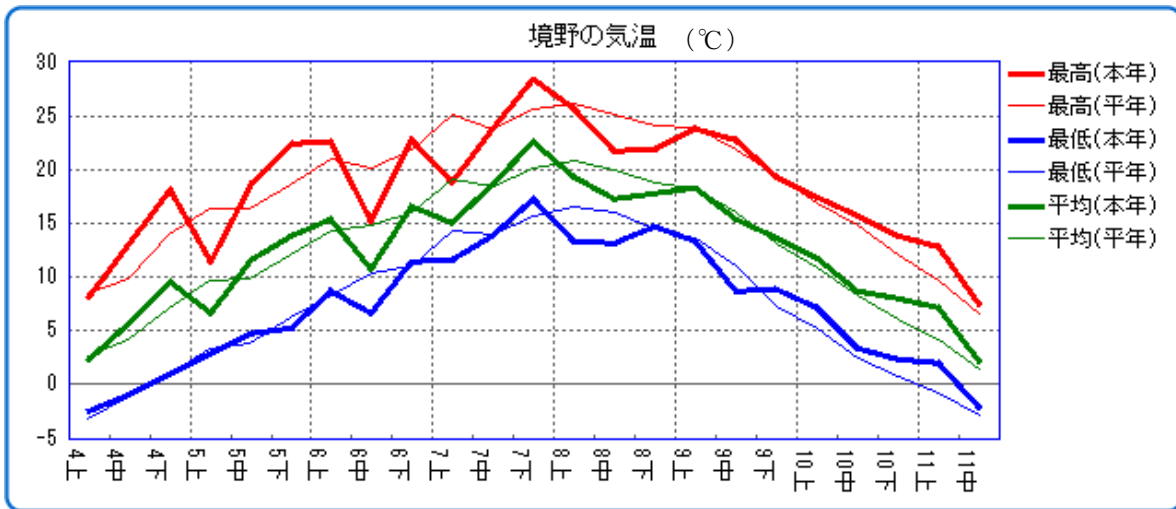
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月は平年並、6月はやや低く、7月は平年並、8月は低く、9月は平年並であった。この期間の日平均気温の積算値は2378℃であった(平年差-88℃、平年比96%)。

降水量：5月・6月はやや多く、7月・8月は多く、9月は少なかった。この期間の降水量の積算は631mmであった(平年差+126mm、平年比125%)。

日照時間：5月～9月までいずれも平年並であった。この期間の日照時間の積算は742時間であった(平年差-48時間、平年比94%)。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

年月	旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
平成30年																
4月	上旬	2.4	2.6	-0.2	8.1	8.4	-0.3	-2.4	-3.2	0.8	0.5	16.9	-16.4	49.6	66.7	-17.1
	中旬	5.8	4.1	1.7	13.1	9.9	3.2	-0.9	-1.1	0.2	18.5	10.6	7.9	76.0	60.1	15.9
	下旬	9.5	7.1	2.4	18.2	13.9	4.3	1.0	1.0	0.0	2.5	20.8	-18.3	85.2	58.5	26.7
5月	上旬	6.7	9.7	-3.0	11.4	16.4	-5.0	2.8	3.4	-0.6	50.5	12.0	38.5	16.8	54.9	-38.1
	中旬	11.6	9.9	1.7	18.7	16.3	2.4	4.8	3.9	0.9	9.5	24.0	-14.5	55.7	57.3	-1.6
	下旬	13.8	12.1	1.7	22.4	18.6	3.8	5.2	6.3	-1.1	11.5	16.5	-5.0	80.8	63.8	17.0
6月	上旬	15.3	14.3	1.0	22.5	21.0	1.5	8.6	8.3	0.3	17.0	20.7	-3.7	67.4	60.6	6.8
	中旬	10.7	14.8	-4.1	15.2	20.1	-4.9	6.6	10.3	-3.7	47.5	32.1	15.4	46.8	48.5	-1.7
	下旬	16.5	16.0	0.5	22.7	21.8	0.9	11.5	11.0	0.5	45.5	26.2	19.3	37.6	54.9	-17.3
7月	上旬	15.0	19.1	-4.1	18.8	25.1	-6.3	11.6	14.3	-2.7	134.5	36.6	97.9	9.2	52.3	-43.1
	中旬	18.6	18.4	0.2	23.8	23.8	0.0	13.8	13.9	-0.1	49.0	42.5	6.5	55.4	47.3	8.1
	下旬	22.5	20.2	2.3	28.4	25.7	2.7	17.3	15.6	1.7	2.0	33.5	-31.5	87.8	55.7	32.1
8月	上旬	19.4	20.8	-1.4	25.6	26.2	-0.6	13.3	16.6	-3.3	26.0	27.7	-1.7	80.0	49.9	30.1
	中旬	17.2	20.0	-2.8	21.8	25.1	-3.3	13.2	16.0	-2.8	131.0	66.9	64.1	24.6	39.7	-15.1
	下旬	17.8	18.8	-1.0	21.9	24.1	-2.2	14.7	14.5	0.2	79.0	43.8	35.2	11.2	46.2	-35.0
9月	上旬	18.3	18.3	0.0	23.7	23.9	-0.2	13.3	13.6	-0.3	18.0	65.6	-47.6	44.1	48.5	-4.4
	中旬	15.3	16.0	-0.7	22.8	21.8	1.0	8.7	11.1	-2.4	0.0	36.8	-36.8	83.1	49.4	33.7
	下旬	13.7	13.1	0.6	19.4	19.4	0.0	8.9	7.3	1.6	10.0	20.4	-10.4	44.5	60.6	-16.1
10月	上旬	11.7	10.8	0.9	17.5	16.8	0.7	7.1	5.2	1.9	80.0	29.7	50.3	38.7	55.8	-17.1
	中旬	8.7	8.3	0.4	15.8	14.8	1.0	3.3	2.5	0.8	15.0	21.6	-6.6	60.9	53.6	7.3
	下旬	8.0	6.0	2.0	13.8	12.1	1.7	2.3	0.8	1.5	38.0	18.6	19.4	52.3	56.2	-3.9
11月	上旬	7.1	4.2	2.9	12.8	9.6	3.2	2.0	-0.8	2.8	2.5	28.4	-25.9	48.8	40.0	8.8
	中旬	2.2	1.4	0.8	7.4	6.5	0.9	-2.1	-2.9	0.8	8.0	18.5	-10.5	33.9	44.0	-10.1
		本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
4月		5.9	4.6	1.3	13.1	10.7	2.4	-0.8	-1.1	0.3	21.5	48.3	-26.8	210.8	185.3	25.5
5月		10.8	10.6	0.2	17.7	17.1	0.6	4.3	4.6	-0.3	71.5	52.5	19.0	153.3	176.0	-22.7
6月		14.2	15.0	-0.8	20.1	21.0	-0.9	8.9	9.9	-1.0	110.0	79.0	31.0	151.8	164.0	-12.2
7月		18.8	19.3	-0.5	23.8	24.9	-1.1	14.3	14.6	-0.3	185.5	112.6	72.9	152.4	155.3	-2.9
8月		18.1	19.8	-1.7	23.1	25.1	-2.0	13.8	15.7	-1.9	236.0	138.4	97.6	115.8	135.8	-20.0
9月		15.8	15.8	0.0	22.0	21.7	0.3	10.3	10.7	-0.4	28.0	122.8	-94.8	171.7	158.5	13.2
10月		9.4	8.3	1.1	15.6	14.5	1.1	4.2	2.8	1.4	133.0	69.9	63.1	151.9	165.6	-13.7
11月(中旬まで)		4.7	2.8	1.9	10.1	8.1	2.0	-0.1	-1.9	1.8	10.5	46.9	-36.4	82.7	84.0	-1.3

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる(てん蔵の定期作況気象情報)。10年平均は前10か年の平均値である。

4) 季節表および農耕期間の平均気温、降水量、日照時間の積算値

年次	初霜 (年.月.日)	根雪始 (年.月.日)	根雪終 (年.月.日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年.月.日)	耕鋤始 (年.月.日)	晩霜 (年.月.日)	初霜 (年.月.日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年.月.日)
本年	H29.10.17	H29.11.18	H30.4.2	136	H30.4.16	H30.4.23	H30.5.21	H30.10.18	149	H30.11.19
平年	10.12	12.6	4.9	125	5.2	4.28	5.6	10.12	158	10.30
比較	5	-18	-7	11	-16	-5	15	6	-9	20

項目 期間	平均気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)	
5月上旬 ～	本年	2378	631	742
	平年	2466	505	790
9月下旬	比較	-88	126	-48

注) 農耕期間の積算値は置戸町境野のアメダスにより、それ以外は北見農試観測値である。

平年値は前10か年の平均値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成29年9月播種） 作 況：不良

事 由：9月中旬は降水量が多く畑の耕起が遅れたことから、播種は平年より5日遅い9月22日となった。出芽期は平年より5日遅い9月30日であった。出芽後、10月中旬の平均気温が平年より極めて低かったため、越冬前（11月20日）の草丈、茎数は平年を下回った。根雪始は平年より18日早い11月18日、融雪期は平年より7日早い4月2日で、根雪期間は平年より11日長かった。調査圃場は融雪剤を散布したため、融雪期が観測点より6日早い3月27日で、雪腐病の発生は少なかった。

融雪期以降、4月の平均気温は平年より高く、5月は平年並に経過したため、生育は進み、出穂期は平年より3日早い6月6日であった。6月中旬と7月上旬の平均気温は平年より極めて低かったため、開花および登熟の進捗は緩慢となり、成熟期は平年より5日遅かった。6月中旬から7月上旬の降水量が多かったことから、赤かび病がわずかに発生した。開花、結実時期の6月下旬から7月上旬の日照時間は少なかった。稈長は平年よりやや短く、穂長は平年並、穂数は少なかった。倒伏は発生しなかった。リットル重は平年並で、千粒重は平年を上回ったが、穂数が少なかったことから、子実重は平年比91%であった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期 (平成29年月.日)	9.22	9.17	5
出芽期 (平成29年月.日)	9.30	9.25	5
出穂期 (平成30年月.日)	6.6	6.9	△3
成熟期 (平成30年月.日)	7.30	7.25	5
草丈(cm) (平成29年11月20日)	12.1	18.5	△6.4
草丈(cm) (平成30年5月20日)	38.4	37.4	1.0
草丈(cm) (平成30年6月20日)	85.1	91.2	△6.1
茎数(本/m ²) (平成29年11月20日)	840	1258	△418
茎数(本/m ²) (平成30年5月20日)	1573	1486	87
茎数(本/m ²) (平成30年6月20日)	719	758	△39
稈長(cm) (成熟期)	79	84	△5
穂長(cm) (成熟期)	8.7	8.8	△0.1
穂数(本/m ²) (成熟期)	663	735	△72
子実重(kg/10a)	654	722	△68
同上平年比 (%)	91	100	△9
リットル重 (g)	805	800	5
千粒重 (g)	41.9	38.8	3.1
品質 (検査等級)	1	1	-

注) 平年値は前7か年中、平成27年（最豊）、29年（最凶）を除く5か年の平均値。

2) 秋まき小麦（平成30年9月播種） 作 況：やや良

事 由：播種は平年より2日早い9月14日に行った。出芽期は平年より3日早い9月22日であった。出芽後、平均気温は平年より高く推移したため生育は良好で、やや過繁茂だが越冬前の草丈、茎数は平年を大きく上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
播種期（平成30年月・日）	9.14	9.16	△2
出芽期（平成30年月・日）	9.22	9.25	△3
草丈(cm)（平成30年11月20日）	24.3	17.2	7.1
茎数(本/m ²)（平成30年11月20日）	1932	1142	790

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均値。

3) 春まき小麦

作 況：やや不良

事 由：

調査圃場は融雪剤散布により3月27日に融雪期となった。3月下旬から4月上旬の降水量は少なく圃場の乾燥が進んだことから、播種期は平年より4日早い4月13日となった。播種後の4月中下旬の平均気温は平年より高く推移し、出芽期は平年より3～6日早かった。5月中旬から6月上旬の平均気温は平年よりやや高かったため生育が進んだが、6月中旬の気温が極めて低かったことから生育は緩慢となった。出穂期は平年より1～2日早かった。開花後の6月下旬以降に降水量が多かったことから赤かび病が多く発生した。また、開花期の7月上旬が低温で日照時間が少なかったことから、不稔となる小花が認められた。8月上旬の平均気温はやや低く、成熟期は平年より4～6日遅くなった。「春よ恋」では8月9日の降雨で倒伏が発生したが軽微であった。稈長は平年並で、穂長はやや長く、穂数は多かった。赤かび病や不稔の発生の影響により、子実重は平年比95～99%で、リットル重は平年を下回った。千粒重は平年並であった。「春よ恋」では発芽粒がごくわずかに認められた。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.13	4.17	△ 4	4.13	4.17	△ 4	
出芽期 (月.日)	4.26	5.2	△ 6	4.30	5.3	△ 3	
出穂期 (月.日)	6.21	6.23	△ 2	6.20	6.21	△ 1	
成熟期 (月.日)	8.9	8.5	4	8.12	8.6	6	
草丈 (cm)	(5月20日)	21.2	15.5	5.7	24.0	15.7	8.2
	(6月20日)	68.9	69.4	△ 0.4	67.4	69.3	△ 1.9
茎数 (本/m ²)	(5月20日)	611	457	154	603	435	168
	(6月20日)	788	822	△ 34	783	813	△ 30
稈長 (cm) (7月20日)	95	97	△ 2	91	94	△ 3	
穂長 (cm) (7月20日)	8.8	8.0	0.8	8.0	7.4	0.6	
穂数 (本/m ²) (7月20日)	738	595	142	711	609	102	
子実重 (kg/10a)	493	518	△ 25	513	517	△ 4	
同上平年比 (%)	95	100	△ 5	99	100	△ 1	
リットル重 (g)	776	806	△ 31	790	805	△ 16	
千粒重 (g)	40.8	39.4	1.4	43.5	41.4	2.0	
品質 (検査等級)	1	1	-	1	1	-	

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

4) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 不良

事 由 : 播種期は平年並の5月16日で、出芽期は平年より2日遅い6月1日であった。出芽後は6月中下旬および7月中旬の気温が平年より極めて低く推移したため、開花期は平年より5日、抽糸期は平年より7日遅かった。抽糸期後も8月中下旬が低温で経過したため8月20日の草丈は平年より52.6cm、9月20日の稈長は平年より24cmそれぞれ低かった。収穫期は平年より3日遅い9月27日であった。収穫時の子実の熟度は黄熟初期と平年並だったものの、総体の乾物率は平年よりやや低かった。乾物茎葉重、乾物雌穂重は平年より少なく、乾物総重および推定TDN収量はともに平年比82%と平年より極めて少なかった。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.16	5.16	0	
出芽期 (月.日)	6.1	5.30	2	
開花期 (月.日)	8.7	8.2	5	
抽糸期 (月.日)	8.8	8.1	7	
収穫期 (月.日)	9.27	9.24	3	
収穫時の熟度	黄熟初期	黄熟初期		
草丈 (cm)	(6月20日)	21.9	29.6	△7.7
	(7月20日)	98.6	171.3	△72.7
	(8月20日)	255.2	307.8	△52.6
稈長 (cm)	(9月20日)	248	272	△24
葉数 (枚)	(6月20日)	4.8	4.6	0.2
	(7月20日)	12.1	12.7	△0.6
	(8月20日)	15.4	15.0	0.4
生総重 (kg/10a)	5678	6800	△1122	
乾物茎葉重 (kg/10a)	815	942	△127	
乾物雌穂重 (kg/10a)	811	1032	△221	
乾物総重 (kg/10a)	1626	1974	△348	
同上平年比 (%)	82	100	△18	
推定TDN収量 (kg/10a)	1164	1425	△261	
同上平年比 (%)	82	100	△18	
総体の乾物率 (%)	28.6	29.1	△0.5	
乾雌穂重割合 (%)	49.9	52.4	△2.5	
有効雌穂割合 (%)	100.0	99.3	0.7	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：不良

事 由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽はやや遅れたが、出芽揃いは良好であった。出芽後は、6月中旬、7月上旬の気温が極めて低く推移したため生育は停滞し、開花始は平年より7日遅かった。7月下旬の高温多照により生育は一旦回復傾向となったが、8月中旬以降の低温により生育は再び停滞し、成熟期は平年より5日遅い9月29日であった。主茎長、主茎節数、分枝数、着莢数はいずれも平年を下回り、一莢内粒数も平年を下回った。子実重は平年比82%と低収であった。百粒重は平年よりやや軽く、屑粒率は平年よりやや少なかった。検査等級は裂皮やしわ粒が少なく平年より優った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	ユキホマレ			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0	
出芽期 (月.日)	6.5	6.2	3	
開花始 (月.日)	7.25	7.18	7	
成熟期 (月.日)	9.29	9.24	5	
主茎長 (cm)	(6月20日)	10.0	12.1	△ 2.1
	(7月20日)	38.9	55.4	△ 16.5
	(8月20日)	55.0	72.6	△ 17.6
	(9月20日)	52.9	73.9	△ 21.0
	(成熟期)	55.6	73.7	△ 18.1
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.2	1.1	△ 0.9
	(7月20日)	4.8	7.8	△ 3.0
主茎節数	(8月20日)	10.0	11.3	△ 1.3
	(9月20日)	9.5	11.4	△ 1.9
	(成熟期)	9.7	11.3	△ 1.8
分枝数 (本/株)	(7月20日)	2.6	5.0	△ 2.4
	(8月20日)	5.8	5.9	△ 0.1
	(9月20日)	4.1	5.6	△ 1.5
	(成熟期)	4.9	5.5	△ 0.6
着莢数 (個/株)	(8月20日)	67.6	81.4	△ 13.8
	(9月20日)	63.4	70.8	△ 7.4
	(成熟期)	61.1	70.7	△ 9.6
一莢内粒数	1.75	1.91	△ 0.18	
子実重 (kg/10a)	305	371	△ 66	
同上平年比 (%)	82	100	△ 18	
百粒重 (g)	32.9	34.5	△ 1.6	
屑粒率 (%)	0.9	1.2	△ 0.3	
品質 (検査等級)	1	2上	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は造りによる検査である。

6) 小豆

作況：やや不良

事由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽期は平年並であったが、出芽後は低温に経過したため生育は停滞し、開花始は「サホロショウズ」で7日、「エリモショウズ」で5日遅れた。7月下旬の高温多照により生育はやや回復したが、8月中旬以降の低温により生育は再び停滞し、成熟期は平年と比べ「サホロショウズ」で24日、「エリモショウズ」で23日遅かった。主茎長、主茎節数、分枝数は、両品種とも生育期間を通じ平年を下回って推移した。9月以降の気温は概ね平年並からやや高く経過したため登熟期間が平年に比べ長くなり、一莢内粒数は平年よりやや少なかったが、着莢数は平年並で、百粒重は平年より重く、子実重は平年並からやや上回った。しかし、降霜の影響で屑粒率は平年を大きく上回り、充実不良の子実も多かったため、検査等級は平年並から劣った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		サホロショウズ			エリモショウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0
出芽期	(月.日)	6.7	6.6	1	6.7	6.7	0
開花始	(月.日)	7.29	7.22	7	7.29	7.24	5
成熟期	(月.日)	10.13	9.19	24	10.17	9.24	23
主茎長(cm)	(6月20日)	2.7	4.3	△1.6	2.5	4.4	△1.9
	(7月20日)	10.3	20.9	△10.6	10.9	20.2	△9.3
	(8月20日)	53.0	77.7	△24.7	48.4	70.3	△21.9
	(9月20日)	64.5	83.3	△18.8	58.3	74.4	△16.1
	(成熟期)	60.9	85.2	△24.3	57.7	75.1	△17.4
本葉数(枚)	(6月20日)	0.0	0.7	△0.7	0.0	0.6	△0.6
	(7月20日)	3.1	7.0	△3.9	3.1	7.1	△4.0
主茎節数	(8月20日)	12.5	13.7	△1.2	13.3	14.3	△1.0
	(9月20日)	13.8	13.9	△0.1	14.2	14.3	△0.1
	(成熟期)	13.1	14.0	△0.9	13.7	14.3	△0.6
分枝数(本/株)	(7月20日)	0.0	2.4	△2.4	0.0	2.4	△2.4
	(8月20日)	1.9	4.4	△2.5	0.9	4.6	△3.7
	(9月20日)	3.5	4.0	△0.5	3.4	3.9	△0.4
	(成熟期)	3.2	3.8	△0.6	3.1	4.0	△0.9
着莢数(個/株)	(8月20日)	13.3	48.7	△35.4	4.7	50.7	△46.0
	(9月20日)	50.4	54.2	△3.8	47.6	55.1	△7.5
	(成熟期)	53.9	52.8	1.1	52.5	55.6	△3.1
一莢内粒数		5.55	6.16	△0.61	6.20	6.50	△0.30
子実重(kg/10a)		373	374	△1	403	388	15
同上平年比(%)		100	100	0	104	100	4
百粒重(g)		17.7	14.8	2.9	16.9	13.9	3.0
屑粒率(%)		12.6	3.3	9.3	16.9	2.8	14.1
品質(検査等級)		4上	4上	—	4下	3下	—

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

7) 菜豆

作況：不良

事由：播種は平年並の5月22日に行った。出芽期は平年並であったが、6月下旬以降の低温寡照傾向により、生育は停滞し、開花始は平年より7日遅い7月15日であった。開花後、7月下旬の高温多照により順調に着莢したが、8月中旬の低温により生育は再び停滞し、成熟期は平年より8日遅い9月9日であった。成熟期の草丈はかなり小さく、主茎節数と分枝数もやや少なかった。着莢数は平年を上回り、一莢内粒数は平年並であったが、百粒重が平年をかなり下回っており、子実重は平年比90%と低収であった。小粒傾向に加え、8月下旬の降雨の影響から色流れ粒の発生もあり、屑粒率は平年より高かった。検査等級は小粒に加え腐敗粒が多く、平年より劣った。

以上のことから、本年の作況は「不良」である。

調査項目	大正金時			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.22	5.22	0	
出芽期 (月.日)	6.5	6.4	1	
開花始 (月.日)	7.15	7.8	7	
成熟期 (月.日)	9.9	9.1	8	
草丈 (cm)	(6月20日)	9.1	11.5	△2.4
	(7月20日)	27.5	44.7	△17.2
	(8月20日)	30.7	49.3	△18.6
	(9月20日)			
	(成熟期)	29.0	49.4	△20.4
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.1	1.1	△1.0
	(7月20日)	3.5	3.4	0.1
主茎節数	(8月20日)	5.7	5.3	0.5
	(9月20日)			
	(成熟期)	5.6	5.3	0.3
分枝数 (本/株)	(7月20日)	4.7	5.5	△0.8
	(8月20日)	4.6	5.2	△0.6
	(9月20日)			
	(成熟期)	4.6	5.1	△0.5
着莢数 (個/株)	(8月20日)	22.1	21.0	1.1
	(9月20日)			
	(成熟期)	22.3	20.1	2.2
一莢内粒数	2.93	2.86	0.07	
子実重 (kg/10a)	285	316	△31	
同上平年比 (%)	90	100	△10	
百粒重 (g)	57.0	69.8	△12.8	
屑粒率 (%)	27.2	10.1	17.1	
品質 (検査等級)	4下	3中	—	

注1) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

3) 屑粒：[下屑粒]+[色流れ粒]。

4) 品質(検査等級)は素俵による検査である。

8) ばれいしょ

作 況：やや不良

事 由：植え付けは平年より3日早い5月9日に行った。萌芽期は平年並であったが、6月中旬の気温が低く経過したことから、開花始は平年より2～3日遅かった。茎長は両品種ともに平年並となった。

「男爵薯」では、7月下旬の高温干ばつにより黄変が進み、枯ちよう期は平年より8日早い8月23日であった。上いも平均重は平年より軽く、上いも重は平年比94%であった。

「コナフブキ」では、枯ちよう期は平年より3日遅い10月7日であった。7月下旬の高温干ばつにより塊茎の肥大開始が遅れ、上いも平均重が平年より14g軽く、上いも重は平年比93%であった。9月上旬から9月下旬まで降水量が少なかったことから、でん粉価は平年より高く、でん粉重は平年比97%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.9	5.12	△3	5.9	5.12	△3	
萌芽期 (月.日)	6.2	6.2	0	6.3	6.3	0	
開花始 (月.日)	7.3	6.30	3	7.1	6.29	2	
枯ちよう期 (月.日)	8.23	8.31	△8	10.7	10.4	3	
茎長(cm)	(6月20日)	14.1	20.7	△6.6	11.2	21.7	△10.5
	(7月20日)	52	51	1	77	70	7
	(8月20日)	54	51	3	79	79	0
茎数(本/株)	(6月20日)	3.1	3.6	△0.5	3.0	3.0	0.0
	(7月20日)	3.9	3.9	0.0	3.8	3.5	0.3
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4522	4558	△36	3350	3819	△469
	(9月20日)	4357	4613	△256	3975	4797	△822
でん粉価(%)	(8月20日)	16.1	15.4	0.7	22.2	21.0	1.2
	(9月20日)	14.8	14.9	△0.1	22.8	22.0	0.8
でん粉重(kg/10a)	(9月20日)	—	—	—	867	1011	△144
上いも数(個/株)		11.4	10.6	0.8	11.1	10.5	0.6
上いも平均重(g)		86	99	△13	94	108	△14
上いも重(kg/10a)		4357	4613	△256	4646	5010	△364
同上平年比(%)		94	100	△6	93	100	△7
でん粉価(%)		14.8	14.9	△0.1	23.0	22.1	0.9
でん粉重(kg/10a)		—	—	—	1022	1058	△36
同上平年比(%)		—	—	—	97	100	△3

注) 平年値は前7か年中、平成24年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況：平年並

事 由：移植栽培の播種は、平年より2日遅い3月24日に行った。育苗期間中は平均気温が平年より高く推移したため、苗の生育は平年より旺盛であった。移植は、平年より3日早い5月2日に行った。移植の前後に降雨があったため、活着は順調であった。以降、気温が高めに推移したため、生育は順調であった。また、直播栽培の播種は、平年より3日早い5月2日に行なった。出芽期は、播種期を反映して、平年より3日早い5月15日であった。

6月中旬から7月中旬にかけては、低温と日照不足の影響で、生育がやや遅延した。7月下旬は高温傾向となり、日照時間も長かったため、生育は回復したが、8月中旬からは低温傾向で経過し、9月に入ってから降水量が平年より少なめに経過したことから、根重の増加が抑制された。

収穫は、平年より2日遅い10月22日に行った。9月下旬から、気温がやや高めに推移し、降水量も多かったため、根重はやや持ち直したが、平年には及ばなかった（平年比約95%）。一方、根中糖分は、8月中旬から9月中旬までが低温傾向であったため、平年を上回った（平年比約105%）。このため、糖量は、ほぼ平年並であった（平年比約100%）。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

注1) 平年値は前7か年中、平成26年（最豊）、28年（最凶）を除く5か年の平均。

注2) 9月20日の根中糖分は、分析機器修理のため測定できなかった。

表 その1

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3.24	3.22	2	3.24	3.22	2	5.2	5.5	△3
移植期	(月.日)	5.2	5.5	△3	5.2	5.5	△3	-	-	-
出芽期	(月.日)	-	-	-	-	-	-	5.15	5.18	△3
収穫期	(月.日)	10.22	10.20	2	10.22	10.20	2	10.22	10.20	2
草丈(cm)	(5月20日)	8.7	6.0	2.7	8.2	5.7	2.5	-	-	-
	(6月20日)	26.9	26.6	0.3	28.7	27.8	0.9	13.5	14.2	△0.7
	(7月20日)	53.0	54.8	△1.8	54.6	53.4	1.2	46.4	49.2	△2.8
	(8月20日)	58.9	59.5	△0.6	61.3	57.4	3.9	61.7	62.5	△0.8
	(9月20日)	62.5	60.1	2.4	62.6	59.1	3.5	63.4	62.9	0.5
生葉数 (枚)	(5月20日)	5.8	4.8	1.0	5.5	4.1	1.4	-	-	-
	(6月20日)	12.0	11.1	0.9	12.5	11.4	1.1	9.2	7.5	1.7
	(7月20日)	18.0	18.4	△0.4	19.8	20.6	△0.8	14.8	15.6	△0.8
	(8月20日)	21.9	23.1	△1.2	26.0	25.8	0.2	22.4	21.6	0.8
	(9月20日)	27.8	24.4	3.4	30.4	27.5	2.9	26.4	22.0	4.4
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	102	99	3	116	108	8	12	14	△2
	(7月20日)	551	556	△5	636	585	51	294	380	△86
	(8月20日)	762	746	16	941	830	111	803	773	30
	(9月20日)	799	659	140	942	782	160	745	740	5
根重 (g/個体)	(6月20日)	21	16	5	31	24	7	1	1	△0
	(7月20日)	231	278	△47	271	292	△21	76	116	△40
	(8月20日)	748	769	△21	783	790	△7	512	551	△39
	(9月20日)	994	1135	△141	987	1122	△135	738	918	△180
根周 (cm)	(7月20日)	21.6	22.7	△1.1	23.1	23.6	△0.5	14.3	16.9	△2.6
	(8月20日)	32.9	32.8	0.1	34.4	34.4	0.0	27.8	28.5	△0.7
	(9月20日)	37.1	37.1	0.0	38.0	39.1	△1.1	31.8	33.8	△2.0
根中糖分(%)	(9月20日)	-	15.24	-	-	15.68	-	-	14.66	-

表 その2

調査項目		移植						直播		
		モノホマレ			アーベント			リッカ(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重	(収穫期)	5162	3851	1311	6443	4458	1985	5691	4599	1092
根重	(収穫期)	7438	7995	△557	7230	7464	△234	6160	6675	△515
同上	平年比(%)	93	100	△7	97	100	△3	92	100	△8
根中糖分(%)		18.46	17.10	1.36	19.10	18.08	1.02	18.12	17.34	0.78
同上	平年比(%)	108	100	8	106	100	6	104	100	4
糖量(kg/10a)		1381	1360	21	1380	1338	42	1116	1196	△80
同上	平年比(%)	102	100	2	103	100	3	93	100	△7

10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : 平年並

事 由 : 萌芽期は平年より5日早い4月17日であった。冬損程度は平年並、春の被度は100%であった。5月下旬から6月上旬にかけての気温が平年より高く推移したため、出穂始は平年より5日早く、出穂期は4日早かった。その後、6月中旬の気温が平年より極めて低く推移し、6月14日収穫の1番草は、草丈が平年より8cm低く、乾物収量は平年比97%と平年並であった。8月3日収穫の2番草は、草丈と節間伸長程度は平年並で、乾物収量も平年比97%と平年並であった。10月3日収穫の3番草は、草丈は平年並で、乾物収量も平年比104%と平年並であった。1～3番草の年間合計乾物収量は、平年比98%と平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.17	4.22	△5
冬損程度		1.0	1.0	0
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	100	0
出穂始	(月.日)	6.8	6.13	△5
出穂期	(月.日)	6.13	6.17	△4
出穂程度	1番草	5.8	8.2	△2.5
節間伸長程度	2番草	3.0	2.7	0.3
刈取日(月.日)	1番草	6.14	6.20	△6
	2番草	8.3	8.10	△7
	3番草	10.3	10.4	△1
倒伏程度	1番草	1.5	3.8	△2.3
病害罹病程度	1番草	1.0	1.3	△0.3
	2番草	4.0	3.5	0.5
	3番草	4.5	2.9	1.6
草丈(cm)	(5月18日)	43	33	10
	(6月5日)	86	69	17
	1番草	94	102	△8
	2番草再生時	37	36	1
	2番草	53	57	△4
	3番草再生時	46	42	4
	3番草	39	43	△4
生草収量(kg/10a)	1番草	2638	2914	△276
	2番草	557	756	△199
	3番草	749	637	112
	合 計	3944	4307	△363
乾物率(%)	1番草	22.4	21.4	1.0
	2番草	30.9	23.8	7.1
	3番草	21.9	26.2	△4.3

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量 (kg/10a)	1番草	590	608	△18
	同上平年比 (%)	97	100	△3
	2番草	172	177	△5
	同上平年比 (%)	97	100	△3
	3番草	163	156	7
	同上平年比 (%)	104	100	4
	合計	925	941	△16
	同上平年比 (%)	98	100	△2

注1) 平年値は前7か年中、平成24年（最豊）、平成27年（最凶）を除く5か年の平均。

注2) 冬損程度、倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微～9:甚で、病害は主に斑点病。出穂程度および節間伸長程度は、1:無～9:極多。

注3) 6月5日の草丈の平年値は、平成29年が欠測のため、前7か年中、平成24年（最豊）、27年（最凶）を除く4か年の平均。

11) たまねぎ

作 況： やや不良

事 由： 播種は、早生種「オホーツク 222」では平年より 1 日遅い 3 月 2 日、中生種「北もみじ 2000」では平年より 3 日早い 3 月 8 日に行った。苗の生育は概ね順調であり、移植は、両品種とも平年並の 5 月 1 日および 5 月 9 日に行った。移植後、5 月中下旬の降水量は平年より少なく、6 月中旬の気温は極めて低く推移したため生育はやや遅れ気味であった。6 月 20 日における生育は、「オホーツク 222」では生葉数および葉鞘径は概ね平年並であるものの、草丈は平年をやや下回った。「北もみじ 2000」も葉鞘径は平年並であるものの、草丈および生葉数は平年をやや下回った。6 月下旬から 7 月上旬の低温寡照により球肥大は遅れた。さらに 6 月中旬から降水量が多かったため 7 月上旬から軟腐病などの発生が認められた。7 月 20 日における生育は、両品種とも草丈および葉鞘径、葉身生重は概ね平年並であるものの、生葉数はやや少なく、球生重は平年を下回った。倒伏期は、「オホーツク 222」では平年より 1 日早く、「北もみじ 2000」では 3 日遅かった。8 月 20 日における一球重は、両品種とも平年をやや下回った。枯葉期は「オホーツク 222」ではやや遅く、「北もみじ 2000」では概ね平年並であった。平年と比べて、両品種とも平均一球重はやや軽く、総収量はやや下回った。変形球等により規格内率はやや低く、規格内収量は「オホーツク 222」では平年を下回り、「北もみじ 2000」ではやや下回った。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目		オホーツク 222			北もみじ 2000		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	3. 2	3. 1	1	3. 8	3.11	△3
出芽期	(月.日)	3.16	3.14	2	3.20	3.23	△3
移植期	(月.日)	5. 1	4.30	1	5. 9	5.10	△1
球肥大期	(月.日)	7.17	7.11	6	7.21	7.19	2
倒伏期	(月.日)	7.29	7.30	△1	8. 8	8. 5	3
根切日	(月.日)	8.13	8.12	1	8.23	8.24	△1
枯葉期	(月.日)	8.24	8.21	3	8.28	8.27	1
収穫期	(月.日)	9. 3	8.30	4	9. 7	9. 8	△1
草丈 (cm)	移植時	21. 8	21. 6	0. 2	21. 9	22. 2	△0. 3
	(6月20日)	42. 0	47. 7	△5. 7	33. 6	36. 4	△2. 8
	(7月20日)	90. 6	86. 7	3. 9	89. 0	85. 0	4. 0
生葉数 (枚)	移植時	2. 6	2. 8	0. 2	3. 0	3. 0	0
	(6月20日)	6. 6	6. 8	△0. 2	5. 4	5. 8	△0. 4
	(7月20日)	8. 8	9. 7	△0. 9	8. 6	9. 5	△0. 9
葉鞘径 (mm)	移植時	4. 1	3. 7	0. 4	3. 4	3. 8	△0. 4
	(6月20日)	12. 5	12. 5	0	9. 7	9. 7	0
	(7月20日)	23. 4	22. 1	1. 3	21. 7	21. 3	0. 4
葉身生重 (g)	(7月20日)	166. 3	175. 4	△9. 1	138. 9	143. 1	△4. 2
球生重 (g)	(7月20日)	57. 3	108. 8	△51. 5	44. 1	63. 9	△19. 8
	(8月20日)	251. 9	279. 3	△27. 4	218. 5	256. 7	△38. 2
総収量 (kg/10a)		7091	7974	△883	6795	7292	△497
規格内収量 (kg/10a)		5685	6951	△1266	5905	6661	△756
同上平年比 (%)		82	100	△18	89	100	△11
規格内率 (%)		80	87	△7	87	92	△5
平均一球重 (g)		237	261	△24	224	239	△15

注) 平年値は前7か年中、平成23年(最豊)、25年(最凶)を除く5か年の平均。